

## スピーカーネットワークコイル &amp; トランス式アッテネータの作り方

## スピーカーネットワークコイル値の調整方法

ネットワークコイルは普通100T~200Tほどで、インダクタンスは巻き数の二乗にほぼ比例する  
誤差を見込んで巻き足したり巻き戻したりすれば、測定器がなくても概ね必要な数値になる  
以下は巻き数100T/0.9mH表示のコイルを巻き戻した時の実測L値、誤差と補正後の巻き数

巻き数	二乗比例 計算値	実測mH
20	0.043	0.04
40	0.14	0.151
60	0.31	0.33
80	0.545	0.561
100	0.852	0.852

過渡特性劣化の少ない5400Hz減衰量12db8Ωトランス式アッテネータ兼フィルタの作り方(測定器がないと無理?)

- 1、通常と同じようにCとLと減衰量を算出  $L=0.252\text{mH}$   $C=2\mu\text{F}$  減衰量12db
  - 2、大きめのLを準備、巻き数と線の太さをチェック、Cは1/16の容量(0.12 $\mu\text{F}$ )を準備
  - 3、上述の資料を参考に二次側の巻き数を決める
  - 4、一次側は二次側の3倍の長さで線径が半分くらいのを準備、全体がボビンに入る様な線径の物を使う。
  - 5、一次側は3分割し二次線と合計  
4本の束を作る
  - 6、束を必要な回数巻き、入口と出口  
を接続し一つの線にすると完成
- ・実測特性は左図 右図
  - ・歪は0.1%以下
  - ・減衰量を変えるときは巻き線構造を  
変える

